

当院倫理委員会規程による審査により承認された以下の人に対する医学系研究を実施いたします。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

#### 【研究課題】

「10mm未満の直腸 neuroendocrine tumor grade 1 (NET G1)は粘膜筋板周囲に限局する良性神経内分泌細胞増殖である」

#### 【研究対象症例】

2008年4月以降 2021年3月末日まで期間の直腸 neuroendocrine tumor grade 1 (NET G1)

#### 【研究目的および意義】

研究代表者は全身臓器の腫瘍の病理診断と間質細胞に関する研究を行ってまいりました。研究対象の主たる臓器は消化管（参考文献：Nakayama H, et al. J Clin Pathol 1999;52:785-786,2000;53:626-629,2001;54:846-848,2002;55:741-744,2004;57:183-185, Nakayama H, et al. Histopathology 2006;48:610-612他）です。自身の経験では、大きさ10mm未満の直腸 neuroendocrine tumor grade 1 (以下直腸NET G1)症例で、リンパ節や他臓器転移した症例はございませんので、「10mm未満の直腸NET G1は粘膜筋板周囲に限局する良性神経内分泌腫瘍あるいは腫瘍類似病変」であることを示すために行わせていただきたく存じます。

#### 【研究方法】

当院消化器内科で内視鏡的に切除された直腸 NET G1 を診断目的で、病変の深さ（深達度）と脈管侵襲を評価するための間質細胞マーカー等を用いた免疫組織化学的検討を含めて作成された病理診断報告書の集計結果を解析し、学会にて発表すると同時に論文化し、査読システムを持つ専門の国際的欧文雑誌に短報（short communication, letter, correspondence）等として投稿いたします。

なお、発表論文には発表論文には、性別、大まかな年齢、発生部位、大きさのみの記載で、他の個人情報は一切掲載されません。集計表のみにすることも考慮します。医学研究及び医療行為の対象となる個人への利益と不利益並びに危険性は一切ございません。

2008年4月以降 2021年3月末日まで期間の直腸 neuroendocrine tumor grade 1 (NET G1)症例について、2021年4月以降、オプトアウト後に解析を開始いたします。

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に対するご質問等ございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

また、試料および情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方にご了解いただけない場合には、研究対象とはせずに、試料・情報を用いませので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはございません。なお、研究結果が既に医学雑誌への掲載や学会発表がされている場合はデータを取り消すことが困難な場合がございます。

【研究組織】

研究代表者 中山 宏文 所属および職名：教育研修部長／診療部臨床検査科主任部長

共同研究者 三重野 寛 所属および職名：副院長

峠 誠司 所属：診療部消化器内科 職名：消化器内科主任部長

吉田 成人 所属：診療部救急センター 職名：救急センター主任部長

山科敬太郎 所属：診療部消化器内科 職名：消化器内科部長

大原 英司 所属：診療部消化器内科 職名：消化器内科部長

城戸聡一郎\*1 所属等：広島記念病院 副診療部長

中尾 円\*2 所属等：なかお内科消化器呼吸器クリニック 院長

\*1\*2 はいずれも当院の前消化器内科医長（現在の職名では消化器内科部長相当）

【本研究に対する問い合わせ先】

・研究内容に関する問い合わせの窓口：

JR 広島病院 臨床検査科（病理診断科） 中山 宏文 082-262-1170（病院代表）

・試料および情報が当該研究に用いられることについて拒否する場合の問い合わせの窓口：

JR 広島病院 臨床検査科（病理診断科） 中山 宏文 082-262-1170（病院代表）